

調査区全景（南西から）

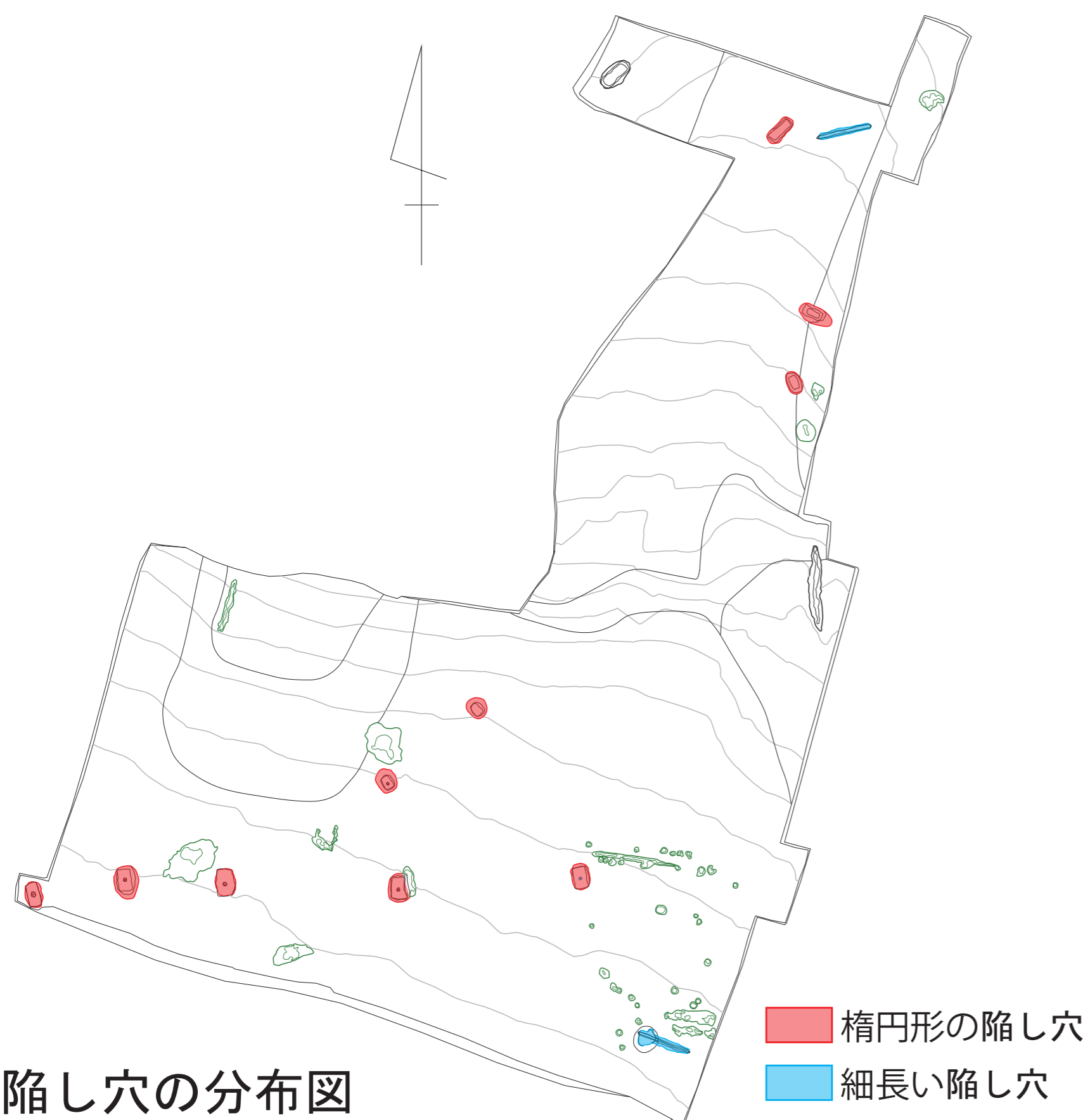
縄文人の知恵！狩りの工夫

たかだやま

①高田山遺跡（栗原市築館高田）



遺跡の詳細な解説動画
はこちらから！



築館の市街地南側のなだらかな丘陵とそのすそ野にかけて広がる縄文時代の集落跡です。

令和4年から市道の工事に伴う発掘調査が栗原市教育委員会により行われました。

調査の結果、縄文時代中期以前（～5000年前）のものとみられる楕円形や細長いかたちをした穴が12基みつけられました。

これらの穴は、動物をとらえるための罠（陥し穴）と考えられ、一列に並ぶように配置されているなど、効率的に動物を捕らえるための縄文時代の人々の工夫がみられます。

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治



人が立っているところが^{おと}陥し穴です。直線状に並んでいる様子がみられます。



楕円形の陥し穴は、長さ約 135 cm、幅約 90 cm、深さ約 80 cm で、底に^{くい}杭を立てていたと考えられる小さな穴がみられます。

楕円形のは獣道に、細長いものは動物の群れが集まる場所につくられたと考えられています。



陥し穴には、動物が一度落ちたら穴からにげられないように工夫されているんだね。



細長いかたちをした陥し穴は、長さ約 280 cm、幅約 40cm、深さ約 80cm です。底面に向かって幅が狭くなっています。